

奥羽教区「東日本大震災 8 年目を覚める礼拝」式文より

交 待

司 式 者：この世界を造られた神よ。

今、私たちは東日本大震災から 8 年の時を迎え、新しく 9 年目に向けて歩もう  
としています。

私たちにとって忘れることの出来ない出来事でしたが、その記憶がない世代が  
あることを私たちは知っています。

どんどんと記憶が風化していくことを私たちは知っています。

会 衆：主よ、私たちの祈りを聞き、私たちを強めてください。

司 式 者：私たちに知恵を与えられた神よ。

東日本大震災を記念することがどのようなことなのか  
そのことを考える時に来ています。

しかし、今もなお多くの人々が苦しみ、悲しみの中におられることを私たちは  
知っています。

会 衆：主よ、私たちの祈りを聞き、私たちを用いてください。

司 式 者：私たちを導かれる神よ。

私たちが住むこの大地には次々と災害が起こります。

自分が中心であり、他者のことを忘れてしまうこと、

他者のことを傷つけてしまうことを私たちは知っています。

記憶はどんどんと上書きされてしまうことを私たちは知っています。

会 衆：主よ、わたしたちの祈りを聞き、私たちを用いてください。

次々と起こる災害によって苦しんでおられる方々がいることを私たちは知って  
います。東日本大震災のことだけでなく、他者の、他の場所で起こる、他の国  
で起こる震災をも覚えていくことが出来ますように。

司 式 者：主よ、私たちの祈りを聞き、私たちを用いてください。

会 衆：新しく起こるであろう災害に備えることができるように、このときを用いさせ  
てください。

司 式 者：主よ、私たちの祈りを聞き、私たちを用いてください。

会 衆：私たちの祈りを聞いてくださる神よ。私たちの言葉に出来ない祈りを聞き届け  
てください。祈りの輪を私たちから作らせてください。

一 同：主よ、私たちの祈りを聞き、私たちを用いてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン

奥羽教区「東日本大震災 8 年目を覚える礼拝」式文より

—あの時を覚えて—

司式者：2011年3月11日午後2時46分、東北地方太平洋沖地震が発生し、多くの被害が生まれました。全国では15,897名の方々が亡くなられ、今もなお、2,534名の方々が行方不明です。復興が叫ばれるなか、今もその爪痕が残されています。

そして、原発事故等による被災によって、今も自分の家に帰ることの出来ない方々が52,731名おられます。放射能被害、住居が失われた方、差別・・・7年がたった今もそこに住む方々の中には、あのときから時間が止まったままの方々がいることを覚えます。

奥羽教区において最も被害の大きかった岩手県では、死者4,674名、行方不明者1,114名、青森県では死者3名、行方不明者1名、震災関連死は3,701名を数えます。

毎年、奥羽教区では3.11.を覚える礼拝を通してあの時のことを覚え続けてきていますが、次々と起こる災害、年月の流れから、奥羽の地にいる私たちでさえ、少しずつその記憶が失われつつあります。

私たちは、今日、改めて、あの時のことを思い起こし、不安な思い、悲しみの思い、つらかった思い、うれしかった思い、心が痛んだ思いを思い出し、それらを神さまに委ねましょう。しばらくの間黙祷いたしましょう。

黙祷

祈り

司式者：神さま、今、私たちはあの時のことを思い出し、あなたにお献げいたしました。

思い出したくないこと、思い出すことによって、また心に痛みを覚えた方々もおられるかもしれません。どうか、そのような一人一人にあなたの慰めと希望を与えてください。

(司式者による自由な祈り)

これらの祈り、希望の源である主イエス・キリストの御名によってあなたのみ前にお献げいたします。アーメン。